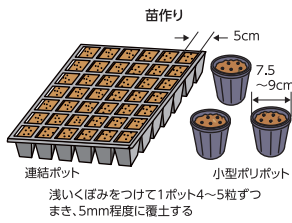
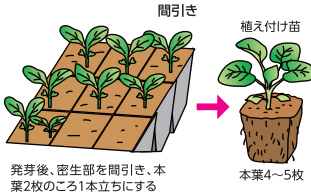




(図1)

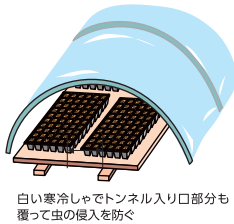


(図2)



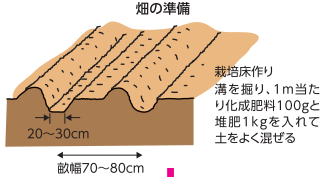
日よけ、虫よけトンネル

(図3)

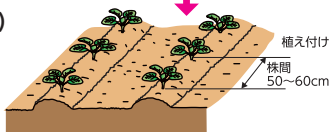


白い寒冷しゃでトンネル入り口部分を覆って虫の侵入を防ぐ

(図4)



(図5)



ハクサイの原産地は中国。日本への本格的な導入は、明治初期と意外にも新しい野菜です。生育適温は15〜20℃と冷涼な気候を好み、まさに冬を代表する野菜といえるでしょう。

【品種】
漬物や鍋に向く大型の品種が主流ですが、重さ600gくらいに育つ小型品種もあります。年内に収穫できる品種として、早生品種の「晴黄65」、中生品種は黄芯系の「黄ごころ85」（いずれもタキイ種苗）などがあります。

【苗作り】
8月中旬〜9月上旬、連結ポットなどに種を4〜5粒ずつまきます。途中、間引きをして1株にし、本葉4〜5枚の苗に仕上げましょう（図1・図2）。

また、防虫には、ネットでトンネル状に覆うなどの方法が有効です（図3）。

【畑の準備】
植え付け2週間前までに1㎡あたり苦土石灰100gを散布し、土とよく混ぜておきます。1週間前までは、深さ20cm、幅20〜30cmの溝を掘り、溝1mにつき化成肥料（N・P・K 10・10・10%のもの最適）100gと堆肥1kgを入れ、土とよく混ぜてから、幅70〜80cmほどの畝を作りま

す（図4）。

ウィルス病を媒介するアブラムシの飛来を防ぐには、白色や銀色の反射性マルチフィルムを使うと効果的です。

【植え付け】
植え穴は50〜60cm間隔で掘り、畑が乾いている場合は穴に水をやりま

す（図5）。

追肥は2回行います。1回目は本葉10枚のころ、畝の肩に化成肥料を1株10gくらいまいて、株元に土寄せします。2回目はその20日後に通路にまき土寄せします。

【病害虫の防除】
ヨトウムシ、コナガ、アブラムシなどによる被害が多いので、オルトラン水和剤などで駆除します。病気予防の基本は、葉を傷めないことです。茎や葉が細菌に侵されて腐り落ちる「軟腐病」が発生

した場合は、発病株を早めに除去し、広がりを防ぎましょう。

【収穫】
早生種は種まきから60〜70日、中生種は80〜100日ほどで収穫時期です。結球の頭を押さえた時、葉に緩みがなく、しっかりとしていれば収穫しましょう。

した場合は、発病株を早めに除去し、広がりを防ぎましょう。

【収穫】
早生種は種まきから60〜70日、中生種は80〜100日ほどで収穫時期です。結球の頭を押さえた時、葉に緩みがなく、しっかりとしていれば収穫しましょう。

肥料・農薬のご紹介 石灰で畑を元気に



雨が降り日本では、畑から石灰分が流れ出し、酸性になりがちです。園芸作物の多くは中性域の土壌を好むため、適切に消石灰を使って良い土壌を作ることが必要になります。

また、土壌中の「石灰」、「苦土」（マグネシウム）、「カリウム」のバランスも重要です。カリウムを補給する化成肥料などに加え、石灰と苦土を同時に補給できる苦土消石灰を施用することで、バランスのとれた土壌にすることが出来ます。

便利な石灰ですが、施用後しばらくは、土の性質が変わっていくため、発芽障害や根やけなどを起こすおそれがあります。作付の2週間前には施用しましょう。

基本的に石灰の施用後、一週間ほど空けないと施肥できませんが、有機石灰（セルカなど）なら、肥料と同時に施用できます。

詳しくは、各営農センターまでお問い合わせください。